

婦人学

第拾壹卷

第拾貳號

フ  
レ  
ー  
ベ  
ル  
會

# 第拾壹卷第拾貳號目次

○寒風

○兒童教育上に於ける試み

小 關 源 助

○動物心理の研究法

増 田 惟 茂

○子供の癖に就て

杉 浦 恂 太 郎

○養育日記の中より

速 水 信

○插花水揚法

こ む か ひ

○机邊だより

倉 橋 惣 三

△子供の人形遊び(サリー氏)

○新刊紹介

△高島氏「教育に應用したる兒童研究」

△大槻氏「實驗心理學」

○會告

## フレーベル會規則

第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハフレーベル會ト稱シ東京ニ置ク

第三條 會員タルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノニシテ會員ノ紹介ヲ經ベシ

第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ贈出スベシ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ

第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ

一 總會 毎年四月廿一日之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、保育參考品幼兒成績物展覽 會務ノ報告 幹事ノ選舉等ヲナス

一 但シ會日ハ會長ノ意見ニヨリ之ヲ變更スルコトアルベシ

一 常會 毎年二月、六月、十月、十二月ノ第二土曜日之ヲ開キ

一 保育ニ關スル演說、談話、協議、實驗等ヲナス

一 組合會 會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組織ス

一 但シ別ニ組合規約ヲ定メテ會長ノ承認ヲ經ルモノトス

一 雜誌發行 毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス

一 前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一人 會務ヲ總理ス

幹事 若干人 會長ヲ補助シテ會務ヲ掌理ス

評議員 若干人 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

第八條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第九條 主幹、幹事、評議員ハ會長ノ特選トス

第十條 本會ハ必要ニ應ジテ二委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ルコトアルベシ

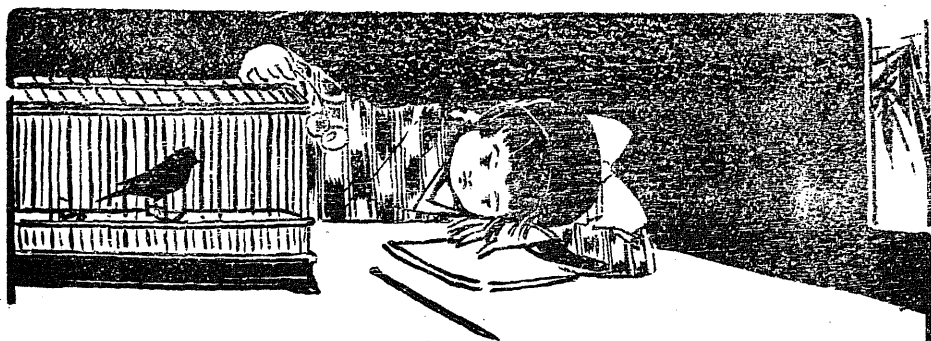
第十一條 此規則ハ會員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

## 購讀の申込

(振替口座東京 一七二六六番)

本誌を購讀なされたき方は會費一ヶ月金十錢の割合で一ヶ月分をまとめて振替貯金へ御拂込下されば直に雜誌を發送致します。

- ◎一冊郵税共金拾一錢
- ◎六冊前金郵税共六拾錢
- ◎拾二冊同金壹圓貳拾錢
- ◎郵券代用一割増



## 第十卷第二十二號



### 寒風

ゆるゆる

風が野を貫いてゆく。どこ迄つめたい風なのであらうか。そのゆく  
 處、觸るゝ處、もの皆荒み敗られぬはない。つれなや只一ひら残る梢  
 の枯葉をだに、吹き拂ひふるひ落さではやまぬといふ。落された枯葉  
 の群が、哀れやがさくと吹きまくられてゆく。どこ迄厳しき追窮の  
 風なのであらう。

省みればわが心にも、此の寒風のすさみはあるまいか。わがゆく處、  
 觸るゝ處、一陣荒涼のつめたさを現じ、苛酷のつれなさを撞にする  
 様のことはあるまいか。其の目、其の唇、風の様に人を貫き、割き、  
 迫め、傷くることはあるまいか。

風に荒らされた野は、また來ん春の恢復もある。一度び寒風に荒ん  
 だ心は、また恢復のよすがもない。

願はくは寒風をしてひとり野を吹かしめよ。わけても柔き子供の前  
 に、わが怖ろしき寒風をして荒まざらしめよ。

# 兒童教育に於ける私の試み

小 關 源 助

## 一 十三年間に於ける

### 私の實驗

教育上の理論に就いても、多少お話し度いと思ふ事柄もありますけれども、今日は、さう云ふ六ヶしい議論はヌキにして、私の過去三十年間に試みた實驗談をお話する事にし度いと思ひます。それも私が教育者として學校に於いて、試みた實驗ではなしに、私の家庭で、私自身の子供に就いて實驗した結果であります。勿論、學校で人様の大切な兒童を預つて、それを自分一個の考へから、無暗な實驗をするとは云ふやうな事があつてはなりませぬが、私ののは、さうではなく、自分の子供に對して、私の思ふやうな教育を施して來た、其の實驗であります。自分の子供が善くならうと、惡くならうと、それは親たる私一個の責任になる譯

で、他に迷惑の及ぶ譯がありませんから、斯う云ふ大膽な試みも出來たのであります。又、其の結果に就いて言つても、總の兒童が、私の得た結果と同一だとは申されず、従つて總の兒童に對して私と同様な教育をおとりなさいと申すのではありませぬ。たい私だけは、從來かう云ふ教育方針を自分の子供にとつて來てその結果が、今斯う云ふ風になつて來ると云ふ事を、ありの儘にお話するに過ぎませぬ。

## 二 私の教育はスペンサー

### 主義である

私の一番頭の子供、結り長男は今年十三で、尋常六年であります。此の子供に對して、生後今日迄に、私のとつて來た養育の方針と云ふものは、一般の教育方針よりは、餘程かけ離れたやり方をして來たのでありまして、云はゞスペンサー主義とも云ふべき方法であります。結り總の事柄を全然子供の自由意志に任せ置いて、些の壓迫も加へ

なかつたのであります。殊に食物に就いては、極端にその主義をとつて來ました。もつと詳しく申すと、子供の欲するだけ與へて置く、自分で厭になつて止すまで與へて置く、食物の撰擇に就いても同様に、子供の好きなものを與へてそれに就いては、決して彼れ此れ申さない。私の子供は澱粉質を非常に好む性質で、殊に豆類は最上の好物であります。四五歳の頃には、一鍋の豆を一度に食つて仕まつた事すらもあつたのです。それでも何等の干渉も與へないで、欲する儘に與へて置いたのであります。是れを此頃の一般の育児法に比べると、寧ろ亂暴と思はれる位に大膽なやり方と云ふべきであります。例へば一日に脂肪質が幾分澱粉質が幾分と云ふやうに、衡で計るやうにして食物を與へて置くやり方とは、大變な相違であります。

そして斯う云ふ大膽な試みを續けて來た結果はどうであるかと申すと、今日迄には何等の害も認め

めないであります。のみならず、第一に意ぢきたなくならないと云ふ事が、最も注意すべき現象の一つであります。身長は餘りありませんが、體重に於いてはクラス中で一番多いさうであります。

斯う云ふ亂暴な育て方を置いて、どうしてこれ程に強健を保つて行く事が出来るかと云ふ疑も起きませう。然しそれは、自分の好きな物は最も多く滋養に富んで居る爲めではないでせうか。私自身に就いて見ましても、私は元來菜食主義で、牛乳や卵のやうなものすら平常は用ひませぬ。多くは野菜であります。それは別に理窟のある譯ではないので、言はひ自分が好きだから喰つて居るのである。そして健康はと云ふと、此の通り肥えて居ります。これを以て見ても、兎に角、自分の好きなものが一番滋養になると申されやうと思ひます。然しこれは總の兒童にとつて、有効だとは決して申しませぬ。私の子供は性來が強壯な體格だから、斯う云ふ結果を見る事が出來たとも云

ひ得るでせうから、他の兒童に對して迄も、同様の方針を施さうとは、決して思はないのです。

### 三 叱る時は極度に叱る

前に申しましたのは、單に食物に就いての一例でありませんが、其の他、行儀、學課の自習等においても、更らに干渉を與へない。子供の意志に任せて置く。勿論學校の受持先生に對しては、十分の尊敬を以て、其の命に従はねばならぬやうに饒けてありますから、若し學校で與へられた宿題等をやらないやうな事があると、それは十分叱つて其の本分を果さしめますが、その他は大體は放任して置く。そして、めつたには叱らない。一年に漸く一二回位叱りませう。然し其の叱るときは極度に叱つて置く。十分親の威嚴を徹し得るまでに叱ります。毎日のやうに小言ばかり續けて居ると云ふ事は、決して子供の爲めにはなるまいと思つて居ます。私は此の方針を言はい、教育上の自然

主義とも云ひ得やうと思ひます。

四

そして、其の結果は怎うかと云ひますと、兎に角、正直であると云ふ事が一番の取得であります。決してウソは云はない。學科に就いて申しまして、自分の子供を褒めるのは少しくおこがましい次第ですが、決して悪いとは申されないのです。欠點と思ふ一は、行儀の善くない事であります。世間の傳習的な、所謂行儀作法に就いては、學科で一番劣等なのです。と申して、何も他を害ふやうな悪い行爲をするのではないので、其の點は十分に教育して置きますから毛頭さう云ふ事はありませぬけれども、たい行儀が悪いのである。結り一種の野性を帶びた子供に出來上つて居るのであります。

では、何故さう云ふ躰け方をして置くかと云ひますと。私一個の考へとして、子供の操行なり、智識慾なりと云ふものは、相當の年齢に達して、理性が發達して來ると、自ら其の分別がついて來る

ものだと思つたからであります。そして、此れも今日では略成功して居るのである。

#### 四 六年になつて急に操行

が改まつて来た

私は家庭では子供に學科等は決して教へない。教へやうと思へば論無教へる位の閑もあるのです。が、決して教へない。然し其の更りに出来るたけ多くの参考書を與へて置きます。中にはすい分六ヶしい中學程度の参考書もあります。さう云ふ適はしからぬ本までも與へて置く。そうすると子供は自分の學力の進むにつれて、必要な場合には、其の六ヶしい参考書までも讀みます。そして相應に解つて行くのです。(コ、迄語の進みました時に先生は一の書函をお持ちになつて記者にお見せ下さいました。其の中には、中等數學辭典とか、中等地理とか云ふやうな本や、小年雜誌や、教科書や、其他いろいろな書籍がつまつて居ました——記者)。尋常六年になつてからは、此の智識慾が一

層盛んになつて來ると共に、一方に操行が非常に改まつて來たのであります。これは注目すべき現象であらうと思います。

何故六年になつて、急にさう云ふ變動を來したかと考へますと、一は六年級は尋常科の最上級であるから、其の體面を穢してはならないと云ふ自覺が腫げながらも、子供の胸に起つて來たやうに思はれます。もう一は、私が今年の夏頃の休暇中は講習會や其の他の用事で、田舎へ行つて居りましたので、其の行く前に、其の子供を呼んで、お父さんの不在中はお前が、私に代つて家を治めて行かなければならないが、お前にはそれが能きかどうかと質問致しますと、出來ると答へたのであります。そして其の後は、自ら主人となつて、妹に對して、僕は毎朝家の中を掃除するから、お前はお玄關をお掃除なさい、僕は此の子供をお守りするから、お前は赤ちやんをお守りなさいと云ふやうに、仕事の分擔を自ら確めて、毎朝其れ

を怠らなかつたさうであります。これが一の動機となつて、操行が格段に改まつて來たのであります。詰り子供自らが、自己の責任と自重とを感じて來たからであります。

## 五 一番効のあつた意見の仕方

前に申しましたのは身體上の動作に關した一例であります。精神上の方面にも同様の實例が幾らもあるのであります。一體、私の子供は片意地の強い性質で、ある行を止させやうとするのに、無暗に壓迫を加へても、何の効もなく、寧ろ反感を懷くに過ぎないのです。此の子供は、性來非常な無口でして、尋常五年までは、學校で本を讀み上げるやうに命ぜられても、又、唱歌の時間になつても、どうしても聲を出して、讀み上げやうとはせなかつたのであります。云つて何も讀めなくて讀まないのではなく、性來無口な爲めに、人中に立つて、大きな聲を出すのが、どうも氣がひけ

る爲めのやうに思はれます。私は憊うにかして、此の惡癖を矯め度いと思ひまして、いろ／＼と意見もし、小言も云つて、すい分酷い叱りやうもして見たのですが、どうしても、それが直らなかつたので、今度は受持の先生と話し合つて、今後どうしても讀まなければ學校を止させるが、それでも讀むのが嫌かと申すと、それには少し困つたやうで、それではキツト讀みますと答へたのです。然し學校に行つて讀まして見ると、先張り讀み得ない。そして今度は學校を止させられてもいゝ、どうしても讀まれないからそれも仕方ありません。ぬと云ふので、私もこれには、少し困つたのです。では學問も何も出來なくなるが、それでもよいかと申しますと、學校に出なくても、本さへ買つて戴けば獨りで勉強しますと答へたのであります。私もほど／＼策が盡きて、學校を止さすやうなら勉強も何もさせないで、子僧にやつて仕まうとまで云つて見ましたが、多少これに窮したやうであ



るが、矢張り讀まなかつたのです。私はいろく  
と方法を考へた結果、或る日彼れ一人を一室へ呼  
びまして、親の威嚴と云ふやうなものは、全くス  
キにして、恰度友達が話をするやうにして、相談  
して見たのです。すると、意外にも一度でそれを  
聞き入れて、今度はキツト讀みますと答へたので  
す。

その前に、宅に居た書生から聞き覺へた琵琶歌  
を獨りで詠つて居たのを聞いた事がありましたか  
ら、私は、たい讀みますと云ふだけではいけない  
から、今後必ず讀むと云ふ證據に、琵琶歌を一つ  
お父さんの前で詠つて御覽なさいと申しますと、  
立派にそれを詠つたのです。そして其の後は學校  
でも、本も讀めば唱歌も詠ふやうになつたのであ  
ります。斯う云ふ事實を以つて見ましても、子供  
に意見をするのに、無暗と頭から叱り付けると云  
ふやうな事は、寧ろ害こそあれ、何の利益もない  
と思ふのであります。

## 六 子供に壓迫を施しては

ならぬ

これは五歳頃の出來事でありましたが、其の頃  
はまた田舎の方に居た時分で、何か私の言付けを  
守らなかつたので、酷く叱つて、仕まいに押入の  
中へ入れて仕まつたのです。すると初めは酷く泣  
いて、だゝをこねて居ましたが、暫くすると何ん  
にも言はないで沈黙つて居るので、どうしたかと  
思つて、戸を開けて見ると、矢張りむじ／＼して  
居る。どうだ出度くないかと問ふと、出たくない、  
何時迄も斯うして居ると云ふので、私もチツト困  
つたので、お伯母さんが謝つて呉れる事にしてや  
つとそんな狂言で押入から出した事もありました。  
此の頃でも、矢張り氣質がぬけないので、氣に  
向いた時は、何んでもする、嫌な時はどんな事でも  
せないのです。此の頃はよく圖書館へ行きしま  
ますが朝出たきり夕方になつて、やつと歸つて來  
るので、何處へ行つて來たのかと問ひますと、圖

書館で本が面白かつたから、今まで讀んで居たと答へるので、お晝御飯はと云ふと、喰はないと云ふ。さう云ふ場合も珍らしくないのであります。時々金を持たせて使にやる事もあります。するとよく持たせてやつた金を落して、ぼんやり歸つて来る事が度々あるのです。それは道で何かに見られて居るか、考へ込んで居るやうに思はれます。路で私に行き合つても、少しも知らないですれ違ふ時などもよくあります。斯う云ふ特殊な性質を持つて居る子供に對しては、殊に壓迫を施してはならないと思ひます。中學にもなれば、少しは硬教育も交へやうと思つて居ます。

要するに、私一個の教育方針としては、飽く迄もスペンサー主義であります。然し他の御子様を教育する上に迄も、これと同様の方針をとらうとは思ひませぬ。私が私自身の子供に、かう云ふ教育を施して來て、それが今日稍成功したやうに思はれる事をお話したに過ぎませぬ。(文責在記者)

## 動物心理の研究法

文學士 増田 惟茂

八

### 一 動物にも言語はある

動物は人間のやうに、ものを言はないからと云つて、必ずしも、其の心を外界に表現する機關が缺けて居るものではないので、魚には魚、鳥には鳥に、それ／＼立派に其の機關が具つて居る。たが人間のやうに、發達した言語を持つて居ないから、吾々人間が動物の心理を研究しやうとする爲めには、それに適當した、都合のよい仕掛けや、工夫などを施して、これを觀察する事の必要なのである。言語にしても、總の動物は絶対に言語はないかと云ふと、決してさうではなく、極く初歩な、言語の端緒はある。これを表情語と稱する吾々人間が今日使用して居る言語も、元はと言へば、矢張りこの表情語から發達して來たものである。猿などになると、この表情語が餘程發達して

居て、音の種類も廿四五はある。普通吾々が耳にして居る鶏さへも、六種からの音を持つて居る。近來に至つて、クレীগ (Crige) と云ふ學者は、鳩の鳴聲を研究し、それを音譜に作った研究が發表されて居る。例へば、驚いたり、怖い目に遇つた時であるとか、楽しい時であるとか、巢の中に居る時は、敵に聞えないやうな小さな鳴聲を出すとか、または、一の鳩の他の群に加つた時、例へば吾々か知人の仲間入りをした時にするやうな挨拶と云つたやうな鳴聲それから普通に野で歌を咏つて居る時の鳴聲などが、それ／＼其の時と場合とに依つて、發音が異つて居る。これを一々精密な研究を積まれて、音譜で表すしてある。(此の時巧の音譜を揭示せられたるもこゝには略す——記者)

このやうに、いろいろの發音があつて、彼等の感情を遺憾なく發表して居る。それを人間の皮想な見解から、ボフとか、ガィとか云ふやうに、大まかな分類に方をつけて仕まうのは、動物を侮辱

したものと云はなければならぬ。

## 二 蜂は如何にして巢へ歸るか

元來、生物の心は、いろいろな運動となつて、外に現はれるもので、例へば手足や顔の運動なり血液なり、又は口や喉の運動ともなつて現はれる。發音はたゞ其の中の一つに過ぎない。だから動物の中には、全然言語のないものもあるが、それがなくても、他動活動を委細に觀察すれば、其の心を知る事が出来る。

蜂はづい分、巢を離れて遠くへ出て居ても、自分の巢を誤らずに歸つて行く。これは、どう云ふ精神作用に依るものであるか、或る人は、これに一種不可思議な精神作用が働いて居るものではないかといふと云つて居るが、決してさうではない。テツカムと云ふ人の研究に依ると、蜂は自分の巢を誤らずに歸らむが爲めには、づい分多くの努力を支拂つて居る。

元來、蜂には團體生活をするものと、單獨生活をするものとの二種ある。單獨生活の蜂の中にもいろいろな種類があるが、テツカム氏の研究した蜂は單獨生活をする蜂の中で、青蟲を捕えて行つて、自分獨りの爲めに作つてある、地中の巢に其の蟲を運んで行く。而も其の蟲は自分が喰ふのではなくて、子の爲めに捕えて行くと云ふ種類の蜂であつた。

或る日、テツカム氏は自分の庭園で、一疋の蜂が青蟲を捕えやうとして居るのを見て、其の行動を研究しやうと云ふ考へから、其の蜂の歸つて行く後を追つて行くと、野を超へて遠くの黍畠に入つたので、蜂を見失つて仕まつた。テツカム氏自ら黍畠に入つて、いろいろと苦心をして再び其の蜂を見付け出した。そして其の巢に入り具合を見届けることが出来た。蜂が巢に入らうとする前には先づ巢の手前に一旦止つて、邊りを能く見まわした上に、敵の居ない事を知つた上に、氣附かない

やうに地ならしをしてある巢の中へ入つて行く。そして再び他の氣附がないやうに、地ならしをして置く。

### 三 蜂は出る時に巢を記憶して行く

其の後、毎日のやうに同一の蜂がテツカム氏の庭園に来て、青蟲を捕えて居るので、今度は蜂が巢を出て稼ぎに行く時の動作を見やうとした。或る朝早くに、前日見届けて置いた巢の邊りに行つて居ると、案に違はず、地中の巢から出て來たので、其の後をついて行くと、蜂は其の巢の邊りをあちこちと見まわした後に、今度は其の周囲を七重八重に飛びまわつた後に、遠く空を飛んで行つた。その後幾度となく、これを觀察して見ると、矢張り同様の方法で巢を去るのである。時に依ると再び巢の邊りに歸つて來て、もう一度見まわした後に去ることもあつた。

蜂に依つては、其の飛び方に、いろいろと相違

はあるが、兎に角、其の飛び方の巧妙なる點は、實に驚くの外はない。これに依つて見ると、蜂が自己の巢を誤らずに歸ると云ふことは、別に不思議な精神作用があるのではなくて、鋭敏なる感覺と知覺、それから強度な記憶力がある爲めであると云ふ事で説明がつく。たゞこれ程巧妙に飛びまわると云ふこと、それ自身が本能的な働きであると云ふに過ぎない。

#### 四 實驗とは心理學上の目的を達する手段である

前に云つたやうに、必ずしも言語に依らなくても、其の行動で十分研究する事が出来る。然し總の場合にこれが有効であるとは云へない。場合に依つては或る特殊な仕掛けを施して、研究の對象に使用された動物が、其の觀察に都合のいゝやうな行動をとるやうに仕向ける必要がある。これが即ち實驗である。この實驗をやるに當つて大切な事柄は、其の實驗の法則である。實驗そのものは

簡單であるが、その實驗の對象なり、器具なりが實驗心理學上に必要な條件を具へて居ると云ふことが大切なので、これが非常に六ヶしいのである。例へば、犬の色彩感覺を實驗する場合に、其の機械は完備して居ても、それに使用する犬の性質なり、色紙なり、光線の具合なりが、十分に其の條件を満して居ない爲めに、いろ／＼と反駁の燒點となることが多いのである。

よし、この實驗が適當に施されたとしても、其の實驗の結果だけでは、未だ研究の目的を達したものと云へない。其の結果をいろ／＼と觀察して、解釋を與へなければならぬ。これにもまた種々な六ヶしい議論がある。

今日は病氣の爲め十分の順備も出來たかつたので、それ等の詳しい説明はこゝには省略する。

(心理學通俗講話會講  
演大要 文責在記者)

雪解けや妹が炬燵に足袋かたし  
足袋はいて足掻げ出すや小さい子

(蘇村)  
(稻青)

# 子供の癪に就て (ついき)

杉浦 恂 太郎

前號に掲げた子供の癪に就て矯正法の大略を少し述べて見やうと思ひます。

## (一) 泣き癪のある子供

之を矯正するには先づ其原因を能く調べることに肝要であります、則ち父母又は家系の中に常に涙もろく感情が強い人があるはせぬか、又さなくとも常に遊ぶ朋友に泣き癪のある子供から自然傳染せしものか、乃至は哀れな刺撃の多き與へた爲何時の間にか、涙もろくなりしか、又餘り我儘勝手のみを許して手を掛け傷り過ぎため僅かなことにも直泣く癪が付たものかを調べますと何か原因と思はれることがあるものであります。

遺傳から來たものならば、人は容易に泣かぬものである僅かのことで泣くやうでは後に役に立つ

立派な人になれぬ、常にこゝと笑つて愉快な顔をして居るものはゑらい人になれるといふことを能く言い聞かせて事々に自尊の念を喚ひ起すやうにし、又一方には快濶豪毅な性質の子供を交友として見習はせるのが善いと思ひます、又我儘などの習慣から來た癪ならば威嚴を正して其の癪を否定し、いくら泣いても少しも構はず棄置して泣くことによつて願望は通らぬものと云ふことを諦めしむるのが宜しいと思ひます、子供は病氣其の他身體に苦痛を感じるときは別として唯泣き癪のあるのに不憫の情を起し之を傷はるのは却て不親切になると思ひます。

## (二) 因循な子供

子供の多くは無邪氣で快濶で騒がし過ぎる位が通例であります、然るに舉止が不活潑で常に沈鬱で朋友にも親まず身體に指したる異狀もないのに愚圖／＼として居る子供があります、これも遺傳と習慣との二つがあらうと思ひます。

生後の境遇から来たもの、中には種々な事情があります、大方は家庭の圓滿を缺きて争論が絶へぬとか、又彼是の區別を付けて取扱はれ悲觀の境遇のみが多いとか知らず識らずの中に此の氣質を養ふやうになつたのがあります。

斯やうな子供は勉めて慰安を得るやうに順境に立たしめ成るべく快瀾な朋友を選みて常に交遊せしめ一方には快瀾なる言語動作を稱揚して次第々々に愉快なる表情に移るやう意を用ゐて指導することが肝要と考へます。

### (二) 朋友に親しまぬ子供

子供の多くは同輩と交遊することを喜ぶものであります、中には朋友と交らず他人の愉快氣に遊ぶのを傍で茫然として唯見て居るか又は己獨り別に離れて氣に向いた遊びをして人と親しまぬ子供があります、此の性質は無論遺傳から來ますが又境遇からも來ることがあります、幼き頃子守などに放任して置きますと子守は自分が勝手氣儘な

ことをして子供を獨り遊ばせる癖を付けて人と共に遊ぶのを樂しまぬやうな習慣は出來ます、畢竟母親が子供を他人に任せて置いて世話の無いのを喜んで居た過ちから來たものであらうと思ひます。斯様な子供には成るべく愛情と親切との勝れた友を選らんで交らせ共同の遊びと共同の作業とをさせて出來るだけ趣味の交換を自覺するやう指導し又面白き話を記憶させて互に樂みを分つやうに注意し總て具體的に導くが必要と思ひます。

### (四) 依頼心の多き子供

人にたよる心は子供のみでなく大人にも多きことは心ある人々の常に嘆て居る所で是を見ても子供を育てる上には深く注意せねばなりません、子供のうち最も甚しいのは下駄を穿くにも帽を戴くにも物を取るにも道を行くにも何から何まで人を當てにして少しも自ら進んで爲うといふ氣質の無いかのやうなものがあります、これは常に餘り世話が届き過ぎて爲し得ることも全く自ら爲さし

めぬ所からかゝる習慣を養ふやうになつた場合が多からうと思ひます、斯の性質は實に恐るべきもので其の儘成長しましたなら心身共に役に立たぬやうな人になります。

之を矯正して改めしむるには其の原因と境遇とを考へて方法を定めねばならぬと思ひます、先づ威厳を示して實行を奨励することが大切で、則ち子供自ら爲し得ることは必ず之を爲さしめて決して他より之を扶助することなく其の實行の有様を親切に見て其の正しきものは賞賛を與へて勵まし、一部より次第に改めしめ漸く勤勞の習慣を得しむるやう導かねばなりません、又父母、保母、教師などは自營の模範を示し斯くの如く爲すべく、斯の如く爲すべきものであると常に身を以て率ゐる之を模倣せしむるやうにすることは最も効が多からうと思ひます。

子供に自營の習慣を早くより養ふことは歐米人の家庭に富んで居ることは皆様も御承知であらうと思ひます、日本人が子供を連れて歩く時には大人の方で子供の足相應に斟酌して行きますから隨

分時間を要します、恰も子供に連れられて行くかの觀があります、歐米人は大人の歩む早さを餘り斟酌しませんから子供は後れ勝で追ひ付かうとして驅け出して行くやうなことはよく見ることであります、一寸としたことのやうですが其の間に依頼心を許さぬと云ふやうな習慣を含んで居ます、又私が先頃獨逸人の子供を托されました其の女

児は十歳です一二の事實を申し上げますと彼女は入學の際母が同道して能く道を教へて翌日は獨りで出しました未だ日本語も解せず近所の地形方角も知らぬ子供には餘り酷いやうでありましたから其後母に會ましたとき申し上げますと一度能く教へて會得したと申しましたから獨り出て出して遣ましたそれを迷ふやうなことでは彼女の不肯でありますから充分誠て下さいと申しました、又其の後遅刻をすることが度々ありましたから母に注意しますと彼女には食事仕度などの時間は充分與へてありますそれを遅刻するのは怠慢か遅鈍かいづれにしても酷しく所罰して下さいと申しました、少々極端なやうでありますが参考すべき所があらうと思ひます。(ついで)



# 養育日記の中より

速 水 信

何くれとなく拾ひあつめかい綴りし日記を見やれば兒等が生ひ立ち様のあり／＼として其心のはたらきさまなどおかしき中にもいひしらずをしへをうくる事のみなり。

四十一年一月元旦 長男の健一は四ツになりました。今來た初刷附録に清少納言が捲簾圖があります、健「母様！此おかめ、何して居るの？」ときいもおはらず右手を舉げて「健「テケテン」。おほかた昨夏のお祭にお神樂で見たのでせう。四ヶ月前の記憶をかくまでの程度に喚起します。

同三日 祖父様のお家へ御年禮のまゝ泊り込み其日祖母様が何かお竈のお話を下女共となさつたさうで、すると側から健「うちの母様、へちいや」と、皆其所以を解しませぬでした。母は後に是を聞いて思はず失笑、多分舊臘瓦斯を引いた爲

古い竈を賣拂いまし のをどこかで見て居て聯想したのでせう。

同十八日 大井町なる吉川のお婆様がわざ／＼健坊のお迎に御入來早速お供して京濱電車に乗る筈、随分長い電車——、まるでボギー車のやうだ！「婆「ボギー車って何？」健「そんな大きな癖に知らないの？」大きい人は皆萬能の人と信仰して居ります。

同廿三日 二宮先生幼時讀書の圖を見て母様に其説明をしきりと尋ねる。むづかしとはおもひましたが偽はるのもあしかるべしと其お話をあらましすると世にも不思議の面地して、健「これ男なの？島田に結てるぢやありませんか？」と成程前髪つけたるちよん髷のよくも島田に似たる事かな。

同四月一日 父上と歸省、今頃は如何にしてなと、母は日向ぼこりの妹に添乳しつゝ思ひ出で案づる折しも父上より端書第一信、其内に、箱根山中を汽車の進行するや富士紡績の電燈煌々たり

健「あれ何？」父「紡績」健「紡績つて何？」父「糸を製しらへる所」と側の人、健一が洋服を指さし、「是を製らへる所です」と健「是は糸ぢやない、毛だ」と側の人黙然。

同六月八日 羽根田へ蒲田のかへりを家族舉りての散策、都の子には珍らしいものゝみの中に潑刺たる魚が最も目につきました、晝食中健「アラお刺身が泳でゐる」と其池の縁に金魚が泳いでゐましたこれを見ても折節は自然に近かつかしめる必要があらうと思ひます。

同十月一日 健一は祖父様がりお泊りに行きました。伯母様より報告の端書のはしに健「お客様は誰？」伯母「新聞記者よ」健「さう新聞貰つて來やうや」といひながら、そつとお座敷をのぞいたが健「汽車の付てる新聞なんか無かつてよ」と折節此様なおのが経験した事のみで判断されるので母も困り切る無理をさく事がございます。其翌年八月の事でした小田原に祖父様一家族が

避暑しておゐでるところへ母と一緒に来ました。早速お膳が出る。まだ御馳走が運ばれないので一寸飛乗つた、すると伯母様が「お膳に乗るものではありませぬよ」ちよつと揺つて見ながら健「さう……でもガタ／＼しませぬよ」と我家のお膳の恥をさらされてしまつた。其日の事夕方二つ下なる妹の松子、蚊のぶん／＼室内に入つて來るのを見て「ア、天井が鳴つて來た」。奇想天外より落つとはこのことか。

十一月四日 觀兵式寫眞新聞にある。嘩かし歡ぶならんと母は健一に「母早く入らつしやい觀兵式のお寫眞見せませう」といへば松子はまわらぬ舌で「松觀兵式がお車に乗て來ますよ」と自分も一つばし大人振つた。兄は又兄顔して健「ヤア可笑しいな觀兵式つて綺麗なことをいふのにねー」と折節朝げの父様はおなかを抱へてお笑ひ。此七年に積る日記を繰りかへしながら何ともいへぬ教訓をさとする様におぼえて、ます／＼母親の任重きを感じます。

# 挿花水楊法

こむかひ

前號「切花の取扱」と題して、下らぬ事を申し上げましたが、是より「挿花水楊法」と題を改めまして御紹介致します事は、或斯道に熱心な人が世に挿花の秘傳とか秘密とか稱へて、容易に人に教授しなかつたり、又は、其教授を乞はんとするには料金として數金を取らるゝなど云ふ事を非常には本意に思ふの餘り其實驗した所を惜しげもなく、或物に書表はされた一節でございます。前置は此位にして、いよく本文にかゝりませう。

一年を眞行草の三つに分けますと、舊五月の夏至から秋の彼岸に至る迄を、眞の時候と致します此季は大陽に當り、陽中陰と申して凡そ生ある者は外に陽氣を發し、内に陰氣を含む、故に衰ふる事多く、養を得ること少いので草木も亦其通りで

陽と云ふは暖とか熱とか云ふ事で、陰と云ふのは、寒とか冷とか云ふ事でございます。冷は養ふことが少く、損することが多いものですから、此季節に切た草木を養ふには、熱湯を以て致します其養方は先づ薄鍋の様な物に水を入れ、之を烈火にかけ、熱湯として之に其切た草木の株を一寸許り浸し、根の色の白く變る迄養うのです。(但花葉は布巾で包み、湯氣のかゝらぬ様に注意がいります)。充分養えた時取上げ、直に水を盛つた桶の中に挿込み、風の當らぬ様に、周圍を筵の様な物で圍み、數時間捨置き、水の揚つた後取出し、養え朽ちた部分を切捨て、瓶に挿すのです。

尤、桶の中に挿込んだ草木は、四方から支を以て直立させ、決して動かしてはいけません。

又夕方に養つた物は、一夜、上部から、夜露を取るのを最良と致します。

此養法を仕やうとする凡ての草木は、伐つて後此法を施すまで、花葉枝共決して水に浸してはい

けません。

「行」の養は、春の彼岸から、舊五月夏至になる迄小陽の時候と、秋の彼岸から霜月冬至になる迄の小陰の時候とに致します。此季は、寒暖共に等しく、和合の節でありますから、伐つた草木を養ふには、炭火を以て致します。

此方は先づ、火鉢の灰を四寸許九く掘り、其中へ烈火を積み上げ、中心に一寸餘の空洞を作り、其穴へ草木の株を五分程差入れ、炭になる迄焼きまして、其焼けた部分を切捨て、又々二回程焼き直して冷水深く浸すのでございます。(以下眞の養法通り取扱ふのです)。

「草」の養法は、舊十一月冬至から春の彼岸になる迄でございます。此季は大陰に當り、陰中の陽でございます。凡て生ある者、外に冷氣を保ち内に暖氣を含みますから、損じ衰ふる事が少ない。是陰氣満つる時は陽氣之を補ひ、陽氣満つる時は陰氣之を冷し、寒は暖を以て出で、暖は寒を以て

退くと云ふ譯になります。

此季には草木の養は暖氣を禁じ、汲立の井水又は温灰、其他暖氣ある物は養ひになりませんから、伐た草木は冷水を盛つた桶の中に直立させ、風の當らない様に周圍を包み、漆喰場に一夜置くのを良いと致します。

以上で、眞行草の三通りの養法が終りました。是から、各草木について一々擧げませう。其中に此三種の養法を、單に眞行草の養法とのみ、申す丈で一々委敷書きませんから、左様御承知をねがひます。

(一) 茎ぶき水揚法 初傳

極早天に切り、根を灰汁で充分煮込み、養え朽ちた所を切捨て、冷水へ深く入置き、水揚りたる後活けるなり。

又根に鹽を付けて焼き、活れる時花器の中に石灰を入れて置くも妙なり。

(二) 葉げい頭水揚法 初傳

極早天に切り、根を十文字に割き、熱湯に浸し色變じたる時冷水に入れ置き、水揚りて後活るなり。

又根本を割り、硫黄を挟み、烈火にて焼くも妙なり。

(三) 鶏頭水揚法

初傳

前晚に切り、根本を三寸許り十文字に割り、其中へ山椒の實を挟み込み、熱湯にて煮込み、冷水に浸し、夜露を取り、翌朝活るなり。

(四) 吾妻菊水揚法

初傳

極早天に伐り、根に油を付て三十分許り炭火にて焼き、焼朽たる部を切捨て、冷水に浸し、水揚りて後活るなり。

(五) 鳥かぶと水揚法

中傳

朝早く伐り、根をたき割り、炭火にて焼き、冷水へ深く浸し、水揚りて後、挿すべし。

(六) 朝顔水揚法

中傳

暮方に明朝開くべき荅を見立て伐るなり。水揚

法は、深き湯呑茶碗に株を差入れ、又急須に上茶を入れ沸湯をさせ、右の茶碗一杯に注ぎ込むべし。随分あつき程よし。水揚りて後活るなり。

(七) 朝顔の客待ちの傳 (極秘傳)

前述の方法によりて二十分間程捨て置き、其上荅を、ぬれ紙にて巻き、竹又は萩の枯枝を、活る姿に繞め、朝顔を巻きつけ、釣瓶にさし、一夜井戸の中に釣し置く時は、花葉共工合よく、上を向くべし。翌日花器に移し、客の來る一時間前に荅の紙を取れば花開くなり。

又花器には甘茶を煎じ、さまして入れ置くべし。

(八) 時鳥草水揚法

初傳

極早天に伐り、直に切口へびんつけ油を付けて其儘根を焼き、朽ちたる所を伐り捨て、冷水に移し、水揚りて後活るなり。

# 机邊だより

## ○人形の研究

(サ リ ー 氏)

此の研究は英國の心理學者ジュームス、サリー (James Sully) 氏の手になつたものであります。他にもかなり多くの研究が發表されて居るけれども然し其の多くは、單に實驗に得た結果の報告に過ぎない。傾があるので、専門家以外の人々には、其の結果を見て、更らに深く人形の眞意を考へ、人形と兒童精神との關係を究めると云ふことは、一寸困難な事と思はれます。之に反して、サリー氏は、スタンレー、ホール氏其他多くの研究家が得た實驗の結果を綜合して、それから推して、一般の人形に通ずる眞意を明にしようとした處に、此の論の價值があると思ひます。此の種の論據の立方としては、どうしても多少哲學的に偏する傾があるので、通俗といふ譯には行かない處もある

けれども、然し、思想の豊富なことや、推理が一貫して居ることが此の問題に就いての多くの裨益と興味とを與へて呉れる處が多いと思ひますから茲に其の大意を御紹介することゝ致しました。

### 一 人形の科學的研究と

#### 其創始者

兒童の玩具としては、人形ほどに兒童精神と密接な關係を持つて居るものはないので、若し人形が其の小さな口から、いろいろな事實を語つて呉れることが出来れば、寧ろ總の心理學者、總の兒童研究家も及ばない程に、兒童精神の本質なり精神なりを聞くことが出来ると思はれる。

近世科學の進歩は、だん／＼と兒童研究の上に及ぼして來て、今迄には恰も測り知る事の出来ない神秘のやうに考へられて居た人形遊びの研究を、科學の世界に結び付けて、一縷の光明を與へて呉れたのは、誰れであるか、と云ふと、それは慧眼なる亞米利加人である。

最近に於ける人形研究のオーソリティーとしては  
 兒童研究家として有名なスタンレー、ホール(Stanley Hall)氏である。これは何人も知る處であら  
 うと思ふ。

同氏は他の一人の研究家と協力して、熱心なる  
 研究を積まれた結果、種々な興味ある問題と、不  
 思議なる事實とを、人形の中に見出したのである。  
 どう云ふ方法で、それ等の事實を發見したかと云  
 ふと、其の一部分は、直接人形の遊び方に就い  
 て研究したものと、兒童にいろ／＼と人形に就い  
 ての質問を試みて得たもので、他の一部分は、比  
 較的年長者が自分の幼兒であつた頃に、行つた人  
 形遊びの記憶を辿つたものと、それから、同氏等  
 が持つて居られる人形に就いての思想とから歸納  
 したものであると思はれる。

## 二 人形の定義は未定 である

人形の研究と云ふ事は、非常に困難な事實で、

先づ「人形とは何か」と云ふ定義を下すことが、  
 先づ六ヶしいのである。多數の人々は、人形は生  
 命のない一の玩具に過ぎないもの、やうに考へる  
 けれども、決してさう云ふ單純なものではない。  
 兒童に取つて、人形は生きて居るばかりではなく  
 兒童自らの精神までも、それに蒐注して、心から  
 の遊び友達とするのが人形遊びの眞髓である。

成人から見れば、人形は單に人間の形をした偶  
 像に過ぎないやうに云はれるけれども、それは成  
 人の製造する傳習的な人形や、商店に陳列してあ  
 る人形を稱して云ふ言葉に過ぎないので、吾々は  
 それと違つた一種の人形があることを知らなければ  
 ならぬ。

然し此處には、人形の定義を鑿穿する必要はな  
 いので、極めて合理的な、そして十分満足し得ら  
 る、定義は、獨り科學的研究の結果から自然と決  
 せられて來るのである。

### 三 人形の種類と其の材料

人形には、(一)成人が一の型に當嵌めて作る人形、即ち傳習的な人形 (Conventional Doll) と、(二)、子供が自己の想像から、自分で作つた人形との二種がある。

一、材料—先づ第一の人形に用ひられる材料は種々あるけれども、木材、ゴム、陶器、蠟、襪等が其の重なる部分を占めて居る。

二、大きさ—人形の大きさにも、種々變化があるけれども、四時乃至十二時の丈が普通になつて居る。藝術品としての立場から論ずると、無論さう云ふ大きな制限がなく、全然自由な大きさを撰ぶべきであるが、然し兒童の玩具としては、凡そ此の大きさを標準とする必要がある。

三、頭髮—人形の頭髮は、一般には實物の髪を用ふるが、又は繪具で書いてある。そして頭髮であるとか、衣類であるとか云ふものは、概して男

の子よりも、女の子になるやうに作られて居て、男兒の人形は極く疎であると云ふことが出来る。

四、年齢—人形の年齢は普通には、飽く迄子供と思はれる年齢でなければならぬやうに考へられて居るが、これは少しく早計に過ぎた推定であると思はれる。其の理由は後に説明する心算である。

### 四 人形の撰擇は子供の

#### 自由である

兒童に與へる人形は、どの種類が適して居るか云ふと、これ迄は、在來の因襲から來て居るものや、商品として賣られて居るものに限られて居るけれども、これは飽く迄も、持主たるべき子供の好みに従ふべきである。子供の保育を重んずる家庭では、少くとも人形の撰擇位は、子供に許されて居ること、私は信じて居る。スタンレー、ホル氏は、八百四十五人の兒童中で、蠟の人形を撰ぶ兒童が百九十一人、襪の人形を撰ぶものが百四



十四人の多數を占めて居たと云ふ、奇異なる事實を發見したことを見ても、吾々成人の考へから子供の慾欲を憶測することは、極めて危険な仕事である。

又、大きさに就いても、意外な擇撰を見る場合が往々あるので、私の知つて居る一婦人は四時半の人形が好きであると云ふので何故かと聞くと、其の人形に假髪や窓持を被せ、それに眉髪を書くともつと可愛い人形になるからたと答へたのである。又、英國の一婦人の語る處に依ると、其の子供は大きな人形を好み、其の理由には、大きな人形は抱くの都合がよく、しつかり抱いて居ると他人が欲いと云はないからだと答た實例もある。思ふに、この子供は、人形が眞當の子供であると思ふ事を、臍氣ながらも考へて居たものと思はれる。

## 五 成人を象徵した人形 と其弊

人形の中には、成人を表した種類のすることは云ふ迄もない事である。然し成人を表した人形の多くは無暗に立流な衣装を飾るとか、特殊な偉人物を表すとかいふ種類に限られて居るやうで、殊に天子の像を表した人形は、此の意味で最も高價をなして居るものである。然しさう云ふ特殊な人形が、どれだけ人形としての役目を満して居るか、子供に取つて、どれだけ會心の友となつて居るか云ふは頗る疑はしいのである。さう云ふ掛け離れた楷級の人形は、寧ろ子供に奇怪の念を興へる爲めに、人形の名を通り越して、反つて敬して遠ざける念を興へるに過ぎないものである。

## 六 着色した人形と道化 た人形の興へる感情

黒い色で着色した人形は、子供がそれを手にした當時は一寸驚くかも知れないが、然し人形としての美感を、子供の胸に印象せしめる事が出来る

可否の點には頗る疑念を懷いて居る。スタンレーホール氏は、子供は着色した人形を好むものでそれは他の人が嫌ふからと云ふ理由であると論じて居るけれども、強ちさうとは斷せられないのでよしさう云ふ兒童があつたとしても、それは極く少數な例外で、決して一般的兒童に通ずる傾向ではなからうと思はれる。

道化た容をした人形や、ポンチ繪的な人形なども、等しく玩具中の一部分をなして居り、人形としての特色も、幾分持つて居ることは、疑のない點であるが、然しさう云ふ人形に對した場合には、子供の心に起る或情の中には、好奇心であるとかその人形に對する憐みの情であるとか云ふやうな分子が混つて居るもので、人形に對する純粹な愛情と云ふものは、極めて薄いものであると云ふことが出来る。

## 七 男兒の人形遊びと人形

### の撰擇

人形遊びは、女の子供だけに限られるもので、男の子供には普通に行はれないものゝやうに考へられて居るけれども、それは決して正確な観方ではないので、スタンレー、ホール氏は、可なり年長の男兒にすらも、人形遊びが喜ばれて居ると云ふ事を證明して居る。然し男兒が人形に對して持つ感情と、女兒のそれとは、其の間に餘程差別があるもので、男の子供は、少くとも道化た人形であるとか、着色した人形であるとか、エスキモー人形であるとか云ふやうな、奇異な形をした人形を撰ぶもので、又、動物の形をした玩具を人形として取扱ふのも、女兒よりは男の子供に多いのである、これは男兒の情感と云ふものは、女兒よりも温和な分子が少いと云ふ事實を證して居る。

## 八 子供の手製人形と其價值

さて、こゝから私自身の意見を陳へやうと思ふのである。

曩さきに述べたやうに成人の手で作つくられる人形にんぎやう、即ち眼であるとか、手であるとか、其の他人間の外形けいけいと等い要素を備へて居る人形だけが、獨り人形としての資格を有つて居るものではないので、さう云ふ何處の店にでも見られるやうな、御きまりな人形の外に、兒童自らの手で作られる人形の一種があることを知らなければならぬ。一般に成人は、完全な人形でないと云ふ立場から、子供の手製の人を輕視して、恰も賣物の人形の代用品のやうに考へて居るけれども、これは極めて不穩當な見方である。成る程、貧しい子供には、或いは棒などにシオールを被せた人形で立派な人形の代りをさせられる場合がないとは云へない。然し子供が自ら好んで、さう云ふ粗雑な、不恰好な成人には人形と思はれないやうな人形を撰ぶ場合が多いとしたならば、どうであるか。成る程、チョットは綺麗な立派な人形に心を奪はれるかも知れないが、若し撰擇の猶豫を十分に與へて、此の二を撰

ばしめたならば、不恰好な方の人形を撰ぶことは疑うたがひない事實である。

兒童の精神を解せない傍觀者に取つては、血も情もない空虚な蠟人形に、子供の情が通ずるといふ事すらも、不思議に思はれる位であるから、更らに、綺麗な裝飾をした人形よりも、粗雑な手製の人形に、より多く歸依すると云ふことは、もつと不思議な事のやうに思はれるでせう。吾々が兒童の精神を考へるときに、其の豫測し難い困難の前に挫折するのは、即ち此處である。

## 九 奇異なる人形の代用品

多數の人々は、前に云つたやうな立場からしてそんな奇怪なものが、どうして人形として考へることが出來やうかと疑ふでせう。さう云ふ人は、スタンレー、ホール氏の「人形の代用品」の一節を讀まれたならば、其の意外な驚かざるを得ないのである。其の中には、例へば、枕、棒、徳利、

玉蜀黍、針、瓜胡、箒、ボタン掛、掛釘、椅子、腰掛などが人形の代用品として、あけてあり、もつと奇怪なのは、箱、水差、皮取り、敷布、ブラシ、サジ、書籍、等で、其の他吾々成人の考へも及ばない種々な物品が、丁度「若し吾々が人形でなかつたら、何になるか云つて見なさい。」としても云ひさうな風に、列へ立てゝある。それであるから、吾々が單に成人の立場から見たいだけで、子供の人形を制限するのは、非常な誤りである。

## 一〇、腰掛や徳利が何故

人形に見えるか

斯様に人形らしくなる物質を、人形として取扱ふ場合が多い處を見ると、子供は、人間の容を大まかに暗示して居る人形を撰べ傾きがあると考へることは出来る。さうして此の形の暗示は、子供が初めて人間の形を畫し繪畫に表はれて来るものである。故に、子供に取つて、圓形であるとか、楕

圓形であるとか、若しくは人間の頭や體に、類似した形であるとか、足に似通つた二つの交叉線であるとか云ふものゝ想像が大切であると云ふ事が理解されると思ふ。

そこで、前に掲げたスタンレー、ホール氏の人形代用品に就いて、子供の想像がどういふ風に働いて居るかを考へて見ると、枕、橙、栗、等は圓形を爲して居る爲めに頭を暗示し、徳利、胡瓜、ブラシ、サジ等は楕圓形を爲して居るから、體を暗示し、火箸は人間の足を暗示するものである。又、靴スギ、洗濯板は、人間の體に似て居る爲めである、スタンレー、ホール氏は云つて居る。それから椅子や腰掛が人形にされるのは、その足が人形の腕のやうに見える爲めであらうと思はれるのである。

尙、兒童の多數は、人間の繪を畫く場合に、人間の體を表すばかりでなく、腕や足を線で表すものであるが、さう云ふ形と子供に取つて一種の

人形である處の棒、針などの形は、何れも原始的な繪畫の描寫法と似通つた處が多いのである。

## 一一、人形の撰擇と頭髮

### との關係

或る場合には、兒童が人形を撰擇する標準は、體に附いて居る附屬物に影響される場合がある。例へば頭髮の如きも其の一であつて、子供の書く人間の畫には、ふさ／＼とした澤山の頭髮の附いた頭を畫くものであるが、これを以て觀ると、頭髮の澤山にあると云ふことが「可愛いげな人形」と云ふ概念になつて居るものであらうと思はれ、又「ネギ」「胡蘿蔔」などを人形にする場合の多いことを以て見ても、これを證據立てることが出来るのである。

また、實物の髪の毛の代りには、種々に似通つた品物が代用される場合も決して少くなくはないやうである。

此等の觀察から推して行くと、子供が繪畫で表す傘であるとか、パイプであるとか、靴であるとか、上草履であるとか云ふやうな物は、何れも人間の形を表す目的で畫かれて居るものと觀る事が出来る、英國の一婦人は、或る夜自分の愛して居る人形と一緒に床に就いて居ると、何かに驚いて床から飛び起きたのでどうしたのかと、聞くと、天床の椽が人形の壁になつて見えたのに驚いたのであると答へたさうである。これは前に云つた事實を極端に象徴したものと思はれる。

## 一二、人形は飽く迄活動的なものである

人間の機能の中でも手のやうな、部分は他の部分より先に發達するものであることは、生理學上から明な事實であるが、これが同時に子供の人形の智識に就いても同様の法則があつて、人形の他の部分よりも、手に就いて知識がより多く發達

するものである。これを以て考へると、人形は繪畫のやうに、靜思的なものではなしに、飽く迄も活動的なものであると云はなければならぬ。

人形遊びは、今後益々盛んに行はれて来るもので、恐らく遊戲中の主要な部分を占めるものと考へることが出来るのである、其の遊びの中でも、殊に盛んなのは、人形に衣装を着せる遊びである。元來子供が、衣装に就いて持つて居る知識は、本能的なものと思はれる位に進んで居るもので、殊に自分の人形の衣装に就いては、カール・ライル氏の衣装哲學にも譲らない程な知識を持つて居る。眞直な棒や、石筆や、箒などは云ふ迄もなく、其の他、大ていの品物に、シオールであるとか風呂敷であるとか云ふやうな衣装を被せると、もう立派な人形になつて来るもので、コート、樓クツ、タオル、敷布なども、用法は違つて居ても、矢張り同様の目的の爲めに用ひられるものである。

### 一三、兒童は人形遊びで

#### 何を表すか

兒童は人形遊びで、何を表はすものであるかと云ふと、スタンレー、ホール氏の研究に依ると、最初は單に人形のお守りをするとか、抱いて或る場所から他の場所へ運ぶとか云ふやうな働きを喜ぶものであると云つて居る。これを半面から考へると、自分が人形を抱いて居ることが、成人の眼に映ずると、子供の心に一種の誇りとも云ふべき感情が起つて、限らない満足を感じるものであると考へられる。それから發達するに従つて、種々な遊び方が行はれるものであるが、今其中で主たるものを項を別けて説明すると、

第一衛生 衣類を着せたり、顔を洗つたり、ブラシで頭の塵を拂つたりする遊び方であつて、其の中でも殊に頭を清潔にする遊びは子供に取つて最も得意な遊び方である處を観ると、清潔とか

綺麗とか云ふやうな思想は、かう云ふ處から養はれて行くもので、又、遡つて考へると、努めて悪感を避けやうとする本能的な欲望が、此處にも働いて居るものとも觀られる。

或る婦人の云ふ處に依ると、同婦人の幼少な時分に、蠟で作つた頭へ、實物の髪を着けた人形と陶器製の頭へ髪の様を書いたもの、二種を持つて居た、そして第一の方はブラシを掛けるのに適して居り、第二の方は洗ふのに都合がよかつたけれども、悲しい事には、共に強く磨く譯には行かないので、心ゆくだけの満足を得ることは出来なかつた。顔は僅にバタで洗つて居たけれども、そんな事では自分の腑に落ちない、寧ろさう云ふ洗ひ方を私に耻ぢて居た。そうする中に、此の二の短所を補つたもので、陶器製の頭へ實用の髪を付けた人形がバリーから送つて呉れたので、其の喜びは譬へやうもない位で、それから後は其の人形と遊ぶことが、何よりも楽しかつたと、時分の幼

時を追懷して誇りげに語つて居た、之れに依つて見ても、人形の體を清潔にすると云ふことが、どれだけ子供に尊ばれて居るか云ふことが理解されると思ふ。

第二食事 食事また、人形遊び中の主要な形式である、そして子供自身は規則正しく、且つ食事をして居るものであるから、此の遊びは子供の愛他的な感情から起るものと思はれる。スタンレーホール氏の報告書に依ると、此の遊び方も、それ／＼子供によつて異つて居て、中にはズイ分奇妙なやり方をする子供もある、或る兒童は食物を人形に近い床の上に供へ、或る兒童は、人形の口へ持つてゆき、更らに極端なのは、人形の齒を壊してまでも、無理に口の中へ入れやうとする子供もある。又、中には、さう云ふ慘酷に近いやうな、やり方をして居るかと思ふと、暫くして氣附いたやうに首の處へ持つて来る兒童もある。

英國の一婦人の言ふ處によると、其の婦人の子

供は、食事の時間になると、キツト人形を二階へ連れて行つて、食堂へはどうしても連れて来ない。そして自分も人形の側で食事をするのが常であつた。其の時に子供が人形に話しかけて居る言葉を聞くと、自分の御母さんが肺を病つて居られるから、側へ行つてはいけなと云ふことや、二階は肺病が来ると大變だから、氣を附けなければならなと云ふやうなことを、繰返してさゝやいて居たこともあり、又、一日人形に食事を與へない時がある、其の翌日は二倍の分量を與へやうとすることもある、これ等は人形に對する子供の忠實な情愛が、如何にもよく表はれて居て面白いと思ふ。それから、自分の食ふべきものを、半分残して人形に供へると云ふやうなことは、常に見る處であつて、これもまた、自己犠牲の精神が表はれて居るものである。

第三就寢 人形を寝かすことも、人形遊び中の一である、人形を揺らしたり、すかししたり、子守

り歌を歌つたりしながら、寝つかせやうとするところは普通に見る處であるが、その中でも、「私の腕がしびれるまで……」と云つたやうな、さゝやきをしながら寝つかせやうとして居る處などは、如何にも子供の眞情があふれて居ると思ふ。その他、音をたてないこと、歩くのにも爪先で靜に歩むこと、話をするのにも、小さくさゝやくこと等にも深い注意を拂ふものである。此れ等の事實に就いて考へて見ると、人形は幼兒として、子供に考へられて居るものである。言ひ換れば床に入れて寝付かせるとか、起さるとか子守り歌を唱ふとかと云ふやうなことをするのは、人形が幼兒であると信じて居るからである。それと同時に、人形がだん／＼生長して行くものだと考へられて居ることも事實である。更らに面白いのは、人形を床に入れた時には、努めて人形の眼を閉ぢやうとすること、若しどうしても閉づることが出来ない人形だと、今度は



着物や布團で人形の顔を隠して、自分に見えないやうにする。これは眼と云ふものは最も強い魔力を持つて居るものであるから、さうせないといふ人形が眠つて居ると云ふ錯感が、子供の頭に起きない爲めである。ガラスで、眼球を作つた人形は、子供に於ける此の錯感を破る傾がある。

第四看病 人形の看病と云ふことも、主なる人形遊びの一である。そして其の治療法が單純な方法で行はれるものである。顔の模様が禿げたり、土が落ちたりした場合には、其の人形は恰も癩病患者のやうに考へられて、如何にも不憫さうに、子供の目に映るのである。もつと酷く顔全體の模様が禿げてしまうと、其處に初めて治療が施される。

或る場合には、人形が麻疹に罹つて居ることを象徴しやうとして、赤の色鉛筆で、ブツ／＼の斑点を人形の顔へ書くこともあり、熱病が癒つたと云ふ記しに、人形の頭髮を巧みに抜き取ることす

らもある。

又、手足や、頭が壊れると、外科手術が施される、然しさう云ふ外科手術を行ふ兒童は極く稀であつて、一般の兒童に共通な遊び方とは云へないやうである。

第五人形の保育 子供が人形の保姆となる遊び方も、屢々行はれるものである。例へば、散歩に出る時や訪問に行く時に連れて行くとか、繪本を見せるとか、ピアノを奏して聞かせるとか云ふやうなことは普通に行はれて居る。

又、學科を教えたり、修身の講義を聞かせたりすることも、人形の監督者としての立場から、往々行はれるものである。

第六懲罰 人形の過ちなり罪なりを懲さうとする考へが子供にあると云ふことは、スタンレーホール氏の報告中に明かである。或る子供の答に「時々人形の爲めになる話をして聞かせます」と云ふやうな答をする子供と、人形が言ひ付けを聞か

ないと、時々ぶつの、それは、おかしいのよ。」と答へた子供とがあつたさうで、子供の心の働き方が、それ／＼子供に依つて異つて行くと云ふことは、此の二つの答を對照して見ると、明になつて来る。

第七葬式 人形遊びの中で、奇妙なのは、厳格な埋葬式が其の中に行はれることである。元來、儀式は最も子供の興味を惹く遊びの一であるが、其の中でも葬式は、吾々成人が葬式に對して起る一種悲哀な感じと同様な感情が、子供の胸にも起るものと思はれる。それ故に、人形の葬式を行ふ子供が極めて多いと云ふ事は、怪むに足らないのである。

或る場合には、一度埋葬した人形を、再び掘出して、元のやうに慈むと云ふ事實のある處を觀ると、子供が埋葬を好むのは、單に其の儀式に興味を持つものとも思はれ、又、一面から云ふと埋葬した人形が、確に天に上つたか、どうかを確かめ

やうとする爲めに、掘出すやうにも思はれる處がある。

さう云ふ意味からではなく、純正に行はれる葬式は、人形が眞當に死んだと考へられた時である例へば人形の頭が壊れて落ちたり、人形の體が破れて、紛がハミ出したりしたやうな場合である。

又、子供が人形に對する愛情がなくなつて、もう其の興味が失せて仕まつた場合に、人形が死んだものとして埋葬しやうとする場合もある。さう云ふ場合には、曾て自分の全情愛とをこめて慈んだ、思ひ出の多い人形の最後を紀念しやうとする情が、明に表はれて居る。カール夫人が、自分人形遊びに適せない年齢になつた時に、自ら行つた儀式や其の感じを語つて居る。

勿論、さう云ふ儀式はつた埋葬の代りに、其の人形を割つて捨てるとか、爐の中へ投げるとか云ふやうな方法をとる子供もあるけれども、一般に女兒は、埋葬式を嫌ふ傾はないやうである。

## 一四、人形は子供の最も親密

な知己である

以上、私の述べた論は、子供が人形を自分の幼  
兒として取扱つて居る場合を論じたものであるが  
然し人形遊びには、それと異つた一面のあること  
を忘れてはならぬ、子供が人形を相手に話をする  
のは、單に其の話しをするると云ふ事に興味を持つ  
だけではなしに、更らに深く、自分の眞情を人形  
に向つて吐露する場合も決して尠くはないのであ  
る。例へば、子供の小さな胸に堪え難い悲みであ  
るとか、不平であるとか云ふやうな感情が起つて  
而もそれを成人に、訴へる事が出来ず、訴へやう  
としても、通することが出来ない場合には、それ  
を人形に語ることが、子供にとつて唯一な慰藉で  
ある。さう云ふ場合の人形遊びは、子供の唯一な  
隠れ場所である。

此の場合には、人形を少くとも自分と同年輩の

ものとして取扱ふものであることは云ふ迄もない  
ことであつて、人形に對して、さう云ふ考へが増  
せば増すほど、それだけ幼兒として取扱ふ分量が  
減つて来る譯である。これは成人にはチヨット氣  
の附かない點であるけれども、決して見過しては  
ならない一面である。

## 一五、一の人形を好む情と澤 山の人形を好む情

子供は、たゞ一の人形を專有して、自分の愛情  
をその一に注中しやうとするものであるが、それ  
とも澤山の人形を好むものであるかと云ふに、そ  
れは何れでもなく此の二つの慾望が一人の子供の  
頭に兩立して居るものと思はれる。單一の人形に  
全情愛を注ぐ場合は、前に種々に説明した通りで  
あるが、澤山の人形を好む場合は、それを一の家  
族として取扱ふもので、詰り自分の家族が多くて  
成るだけ多く自分の情愛をそれに注ぐことが出来

れば、それだけ多く自分の幸福を増す譯である。

一面から見ると、家族全體を愛する情愛の中には、單一の人形を愛する愛情が包含されて居るのではなく、言ひ換へれば、單一の人形を獨占して、それに全情愛を注しやうとする欲望が少し擴くなつて家族全體を愛するもつと大きな情愛になつて来るものであらうと思はれる。

それから、紙人形であるとか、陶器製の人形であるとか、蠟の人形であるとか云ふやうなものはそれ／＼違つた一族として取扱はれるものである、そして人形の家族が一族に限られて居る場合には、よく子供の心に、依怙ヒイキの情が起るもので、ある一の人形に對しては、其の取扱が著しい相違が表はれて来る、これは一般社會の家族の中でも、姪と姪とが互に愛しあふのと同様の譯である。

## 一六、人形が擬人を失ふ場合

人形遊びは、多くの場合に於いて、結婚式であ

るとか云ふやうな、目立つた儀式や、社會的競戲(Social Game)を愛する欲望を助長するものである。紙人形や、繪の人形などは、よく此の目的に使用されるものである。此の遊戲の中には、人形芝居の分子が含まれて居るもので、此の場合には、人形の擬人が失はれて、人形は人形芝居の役者、子供は其の監督者になるのである。

木製の人形と、蠟の人形とに對して、子供の心がどんな風に働くと云ふことは、餘程困難な研究問題である。スタンレーホール氏も此の點には未だ論及されて居ないが、子供が此等の人形に對した時の態度から考へると、此の二の人形は少くとも自分と同様な人であるやうに考へて居るものと思はれる。言ひ換へれば、此れ等の人形は生きて居るもので、食物や、睡眠や、又必要な時には醫藥を與へることに依つて、人形の健康を保つたり、假に生長したりするもの、やうに考へ分れて居り、又視覺や、喜怒哀樂の情は勿論、待遇の

よし悪しなり、憎愛の差別なり、又幼稚なからも一通りの道念位を理解するだけの感覚を持つて居ると信じて居るやうに思はれる。

## 一七、粗雑な人形に對した

### 時の子供の錯感情

どんな恰好の人形が、一番よく子供に好かれるかと云ふと、吾々成人から考へれば、成るべく人間の容、殊に女の子供に近い、ハッキリした人形が、より多く喜ばれさうに思はれる。處が必ずしも、さうではないので、どんな粗雑な人形でも、チヨット人間の恰好さへ付いて居れば、優に人間の錯感と呼び起すだけの力が子供に與へられて居るのである。どんな不恰好な、人形にも、等しく愛いらしい目、薇薔色の頬、やわらかな頭髮などが立派に備つて居るのである。そして、さう云ふ錯感を妨げる。不釣合な分子があつた場合には、用捨なく自分の頭から除いて仕まうだけの働きを

持つて居るのである。

成人から考へると、若し人形の眼が動がなかつたり、若し動いたとしても、少しも意味がなかつたり、口が開かなかつたり、頭が動かなかつたり、偶像のやうに一言も發するところがなかつたならば、どうであるかと云ふ疑問は當然起きて来る。然しさう云ふ心配はいらないので、子供の躍如たる想像力は、自分の頭にさう云ふものを描くだけの藝術的な働きをなすものである。例へば床へ入れた人形が何時迄も眼を閉ぢなかつた時に、着物で顔を隠さうとしたり、喉へ通すことの出来ない食物を人形の背後に隠したりするのは、此の働きが外部に表はれたものと觀る事が出来る。子供が自分で作る人形、例へば棒に襖を覆せたものを人形として取扱ふ場合は、最もよく此の作用が子供の頭に働くもので、此の場合には子供の理解力が極度に減じて、獨り想像力だけが働くのである。

## 一八、粗雑な人形を喜ぶのは

### 兒童一般の通例である

それでは、完成されて居る綺麗な人形よりも、粗雑な手製の人形を好む兒童は、どんな階級の兒童であるか、さう云ふ子供は、人形を生きて居るものとして尊重する感情よりも、寧ろさう云ふ矛盾を觀破するだけの知識が勝つて居る爲めに、自分の想像を弄ぶよりも、自ら作り出す欲望の方が多いのではなからうかと云ふ疑問が起きて来る。スタンレー、ホール氏も此の點には何等の解決も與へられてないが、私の考へでは一般の兒童は皆さう云ふ人形を喜ぶものであると思はれる。これは矢張り前に云つたやうに、強度な子供の想像力がさう云ふ人形を作り上げるもので、言ひ換へれば、子供の理解力が内部思想の爲めに壓せられてしまつて、其處に一種の催眠作用が起きるのである。此の作用を名けて「官能錯感」と云ふことが

出来る。吾々が最も強度な錯感として居る、芝居から受ける藝術錯感ですらも、子供の人形に於ける錯感に比べると、遙に冷かな、覺醒的なものである。

## 一九、人形はどんな物として

### 子供に取扱はれるか

スタンレー、ホール氏の言に依ると、子供が幼兒の人形を作る場合が比較的少く、反つて成人を表す人形を作る場合が多い處を觀ると、父及び母としての立場から、人形を愛する感情が比較的少いものであると、論じて居るけれども、これは少しく早計に失した見方で、私の考へに依ると、子供はさう云ふ成人の人形をも、同じく子供の心算で表はし、子供として取扱ふものではなからうかと思はれる。曩きに述べたやうに、子供は自分の想像に不利の部分は、頭から除いてしまふだけの力を持つて居る爲めに、成人を表した人形でも、

同様に子供として取扱ふことが出来るものである。スタンレー、ホール氏の揚げた實例で、人形を努めて幼児にしやうとする爲めに、人形の頭髮までもムシリ取つて、坊主にする場合がある。と云ふことは取りも直さず、子供の寵愛物となる人形は幼児の人形に限られて居ると云ふ事を證據立て居るものであらう。

又、一方から考へると、人形遊びは、殆んど全世界に涉つて行はれて居るが、何れの國に於いても古來から主として女の遊戲として傳つて居ることを考へたり、又其の遊戲の大部分は育児の模倣であることと考へると、どうしても母としての立場から人形を愛するものと觀なければならぬ。

スペインサーは、母の幼児を慈む心情に、女性本來の特質が宿つて居ると云つて居るが、實際、傷いけな、小さなものを慈しまうとする情は、兒童殊に女兒の持つて居る著しい特質の一である。そして人形は此の欲望を満足するに、最も都合よい

ものののである。

## 二〇、人形遊びに於ける

### 子供の主觀的欲望

更に一面からこれを考へると、さう云ふ遊び方の中には、子供が保育せらるゝ地位を脱して、保育する地位に立たうとする先天的な欲望が、其の中に働いて居るものではなからうかと考へられる。さう云ふ自分の地位を主觀的に轉倒する遊び方が、子供を満足せしめるものであると云ふことは、自分と同じ位の人形が子供の手で作られた時に、最もよく表はれるものである。果して、さうであるとするれば、子供が幼児の人形を喜ぶ原因に、一の新たな説明が加へられた譯である。

兎も角も、親としての情愛が、人形遊びの根本となつて居るもので、少くとも、其の感情が他の感情よりも、餘計に發達して居ると云ふことは、以上の説明で、略ぼ理解されたことと、信ずる。

其の他、子供の年齢が、青年期、處女期になるに従つて、人形に對する感情が、どんな風に變化して行くかと云ふことなども、大切な研究であるが、これは機を見て更らに論じ度いと思ふ。

要するに、人形の神秘は、探れば探ぐるほど深い神秘に鎖されて居るもので、スタンレー、ホル氏の報告も、多くの興味を惹く割合には、人種學上に及ばす効果が少いやうに思はれるのである。(完)

## 新著紹介

### ○高島氏「教育に應用したる兒童研究」

高島平三郎氏著「教育に應用したる兒童研究」は邦語にて著はされた兒童研究書中、恐らく一番大きいものである。「兒童と人生」、「兒童の意義」、「兒童の身體」、「嬰兒の心」、「幼兒の心」、「少年少女の心」、「青年處女の心」、「結論」の八章に分けて、總頁數五百八十八、兒童心理の各問題に涉つて居る。但し緒言にも著者自ら述べられてある通り、純學

術的に記述せられたものではない。同氏の前著「兒童心理講話」の後を承けて、通俗の範圍に於て一層精と密とを進め、多少理論上の記述を添へられたものである。即ち書名の示す通り教育上の應用といふことを主としてある。之れ一般讀者にとりて、直接有益の書たる所以である。「幼兒の心」の章では幼稚園に關する問題がいろ／＼論ぜられてある。又此の章に於て玩具に關する多くの記述がある。従つて此の章が最も多く、幼兒教育者に興味を興へる。各時期に涉つて兒童の各種本能が説明せられてあるのも讀者にとつて利益の多いことである。たゞ兒童の恐怖に關する問題が本能としても、情緒としても説明せられて居ないのは著者に特別の御意見のあることであらうか。文章は言文一致體で極く平易に讀み易く、卷末に附せられた索引と參考書とは讀者にとつて甚だ便利である。之れ等編述上の親切に就ても、著者の勞は少なからざることである。我國兒童研究界に此の好著を得たことを喜ぶのである。(東京麹町二丁目洛陽堂發兌 定價金貳圓八拾錢)

○爾來本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます。

一、庶務上の御手紙は、東京市小石川區久堅町七十四番地、フレイベル會宛。

二、會計事務は、東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、雨森劍苑宛。

三、婦人と子ども編輯上の御用務(原稿、廣告等)は東京府下代々木九十二番地、倉橋惣三宛。